



復興副大臣

走れコウイチ!

就任半年、復興加速に全力!

昨年末の総選挙では、皆様の熱く、温かい御支援により四回目の当選を果たすことができました。心より厚く御礼を申し上げます。私のやるべきことは「仕事師」として、国民のため、地域のために、しっかりと成果を出すことだと思っています。「仕事師」としての力量が試されているとの覚悟で臨んでいます。

さて、安倍内閣の復興副大臣として始動して六ヶ月あまりが経過しました。この間、東日本大震災からの復興を加速する為に、新たな取組みを矢継ぎ早に行いました。

具体的には、五年間の復興予算を「十九兆円」から「二十五兆円」へと見直し、復興庁の体制強化を図り、住宅・まちづくりの復興を加速するための制度改正、税制改正、マンパワーの充実強化を着々と進めています。

私自身、副大臣として心掛けてきたことは、難航していることについて、自治体トップと直接交渉し、自らの責任で合意を目指して決断することでした。宮城県名取市閉上地区も、様々な経緯があり土地区画整理事業の方針が決まっていなかったのですが、佐々木名取市長との協議を重ね、被災された方々の想いと歴史ある閉上地区の復興を両立する方針の下、事業の根幹について合意に至り、事業実施へ大きく前進しました。

今後とも被災地の復興はもとより、地方の、選挙区の再生、活性化に向けて、全力で取り組んでまいります。

宮城県名取市長コラム

すいあん 粹庵

名取市長 佐々木 一十郎



実は絶望しかけておりました。何度重ねても妥協点が見いだせない復興交渉、現地の事情を理解しない一部官僚からの(彼らにしてみれば当然の)無理難題。間もなく丸2年が過ぎようとしているのに先が見えないこの体たらく。

このような中、谷復興副大臣がやってこられました。2度目の懇談終了間際「この方針でやっとういこう」といとも簡単に即座に決断してくれました。1時間ほどの交渉でこれまで踏み出せなかった事業認可に向けた方針があつという間に決まってしまうました。まだ、保留事項が何点か残っていますが大きな方向性は見えてきました。

谷公一復興副大臣は兵庫県の日本海側に近い内陸部の出身。大学卒業後、兵庫県庁に入り防災局長、政策室長を歴任、阪神淡路大震災では県の災対本部員として復旧・復興に従事し、多くの難関を突破してこられました。その谷さんがよくぞ復興庁の宮城県担当として来てくれたものです。今回の大震災は、過去に経験のない大規模災害ですので、これまでの基準を持ち出している、いつになっても復興事業は始まりません。この度の方針決定は、これぞ政治主導トップの決断。政権交代の成果です。谷副大臣の勇気ある決断に心から敬意を表します。

2013年3月1日(広報なとり抜粋)

▶▶▶ 6ヶ月で50日間、200箇所、現地入り ▶▶▶



衆議院議員 谷 公一 プロフィール

【谷公一の経歴】

1952(昭和27年)年1月28日、兵庫県香美町(旧村岡町)に生まれる。地元小・中・八鹿高校卒業後、明治大学政経学部政治学科に入学。兵庫県に入庁、自治省(現総務省)、消防庁を経て阪神・淡路大震災に遭遇。兵庫県防災局長、政策室長(現政策局長)を歴任後退庁。2003(平成15)年、衆議院議員に当選(現在4期)。国土交通大臣政務官(安倍・福田内閣)、自民党国対副委員長、議院運営委員会議事進行係などを歴任、現在は復興副大臣(第2次安倍内閣)を務める。

- 《尊敬する人》
・齋藤隆夫(爾軍演説)
- 《好きな言葉》
・「我が物と思えば軽し 傘の雪」(川柳)
- 《趣味》
・歌舞伎鑑賞・山歩き・温泉めぐり
- 《好きな食べ物》
・日本そば・きつねうどん・20世紀梨
- 《家族》
・妻、子供3人(女・男・女)、孫(男・女)

【歴任の主な役職】

<自由民主党>・副幹事長・災害対策特別委員長・税制調査会幹事・東日本大震災復興加速化本部事務局長・過疎対策特別委員会事務局長・林政調査会事務局長・山村振興特委事務局長・兵庫県支部連合会会長

【主な議員連盟】

・消防議連(事務局長)・日本伝統文化活性化議連(事務局長)・オイスカ議連(事務局長)・自治体病院議連(事務局長)